

- 2・3 面 興動館プロジェクト今昔座談会
- 4 面 社会で学ぶ興動館
- 5 面 興動館20周年記念祝賀会開催
- 6 面 学生表彰／各種奨学生決定

から自分の力で未来を切り拓いていかなければなりません。興動館で青春を過ごした興動人としての誇りと自信を胸に、卒業後の長い人生を充実した豊かなものにしてほしいと思います。そのため、かげがえのない4年間に対して大きな責任感を持って、今後も私たちは学生に真摯に向き合い、全力で指導に取り組んでまいります。

「興動館科目」と「興動館プロジェクト」この2つの学びが相互に作用し合い、学生は実社会で活躍するための「人間力」を身につけていきます。

この20年で、さまざまなプロジェクトが立ち上がり、修了していくなかで、20年間継続しているプロジェクトもあります。そんなプロジェクトの卒業生と、今まさにプロジェクト活動に取り組む在学生、そして両者を見守ってきたコーディネーター(教職員)を交え、20年での変わり、学生は何を身につけたのか、語りました。

興動館科目

「人間力」を構成する4つの力を養います。

元気カフィールド
企画カフィールド
行動カフィールド
共生カフィールド

科目で学んだことをプロジェクトの場で実践する

プロジェクトの場で必要性を実感し科目で学ぶ

興動館プロジェクト

チームでプロジェクトに取り組み、社会で必要とされる力を育みます。

国際交流
社会貢献
地域活性
経済活動

社会課題に取り組む



コーディネーター：
柏谷 紘計さん(興動館課長)

◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生

◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生

◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生

◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生



◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生

卒業生

×

在学生

×

コーディネーター
(教職員)

今昔

座談会

興動館プロジェクト

カンボジア国際交流プロジェクト

副読本に込めた教育のバトンで、志を紡いでいく

◎海外渡航で得られる経験とは

柏谷：2008年にこのプロジェクトがスタートして以来、一貫してカンボジアの子どもたちへの教育支援を行ってきました。今年原さんが参加したのは2012年でした。

今原：はい。友人に誘われて説明会に行き、パネル紹介で見たカンボジアの子どもたちの笑顔に魅了されて参加を決めました。

柏谷：現在勤めている会社でも、最初はカンボジアで勤務されたんですね。

今原：はい。東京本社に戻るまでの約10年近く、海外進出企業の支援などを担当しました。プロジェクト活動を通して、すっかりカンボジアの魅力にはまっています。

高井：あと、カンボジアは、経済的に厳しい環境を想像していましたが、想像以上に発展している様子を目の当たりにし驚きました。また、子どもたちが明るく積極的に関わってくれたことが印象的でした。

柏谷：旅行では味わえない、そこそそ人生が変わるくらいの海外経験ができる点も、興動館プロジェクトの魅力ですね。未知の環境を受け入れて、新たな価値観が広がったことは嬉しいですね。

高井：渡航の準備では学生だけでここまでやるの



副読本

ポール・ポト政権により多くの知識人が犠牲になった悲惨な歴史を持つカンボジアでは、教育環境の整備が大きな課題になっています。カンボジアの将来を担う子どもたちが、自分たちの未来に夢や希望を持って学べるよう、日本や広島の戦後復興プロセスを記した副読本を制作し、現地の小学校でオリジナルの授業を展開する活動を行っています。



プロジェクト卒業生：今原佳南さん
(2016年3月卒/株式会社フォーバル勤務)

が、カンボジアの教育支援に着目して副読本の制作を始めました。これまでに2冊の副読本を完成させ、高学年向け副読本「AOGIR」が完成間近です。

今原：私の代に低学年向けの副読本「SAKURA」の制作が始まったのを覚えています。

柏谷：「SAKURA」は、日本の戦後復興をテーマに産業、経済、教育、生活などについて、絵や写真を多く使い、わかりやすく紹介した副読本です。

今原：実際に現地の授業で理解度を確認したり、教員養成学校の学生たちと内容についてディスカッションしたりするなど改善を繰り返した成果です。

高井：おかげで、現地の子どもたちに親しまれる教材になっています。衛生のページも「SAKURA」

関連するオススメ

興動館科目紹介

広い世界に飛び出そう(共生カフィールド)
日本人学生と本学で学ぶ外国人留学生を引き合わせ、互いのものの見方を学び、各自の世界を広げることを目指して授業を展開。自身の文化または他者の文化にまつわるアクティビティの企画・実施、異文化コミュニケーション理論の学習と実践、互いの文化に関するプレゼンテーション資料の制作などを学びます。



プロジェクト前リーダー：高井早代さん
(経営学科4年/愛媛県・松山商業高校出身)

◎支援から自立へ、止まらない活動
今原：プロジェクトの課題は、伝えたことを現地の人が続けてもらう、その場しのぎの活動にしないことです。年に2回の渡航ではなかなか継続の部分が見えないものどかしさがありました。

高井：いま計画しているのは、提携しているパニアサストラ大学の学生たちに私たちと同じ活動を行ってもらうことです。実現できれば動きが加速し、成果につながりやすくなると思っています。

今原：以前に比べると、仕組みづくりに関するPDCAがしっかり回っていますね。



◎子どもたちに親しまれている
オリジナル副読本
柏谷：プロジェクト1期生

外部協力団体数と団体例一覧

◎団体一覧

産業界	・株式会社サンフレッチェ広島 ・丸紅株式会社 ・ライオン株式会社 ほか	254 団体
官公庁	・広島県庁 ・広島市役所 ・庄原市役所 ほか	104 団体
学校	・広島市立祇園小学校 ・広島市立祇園中学校 ・早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ほか	118 団体
民間	・祇園地区青少年健全育成連絡協議会 ・国際ソロボチミスト広島 ・社会福祉法人広島市安佐南区社会福祉協議会 ほか	237 団体

※学生が主体的に活動する「興動館プロジェクト」に、ご支援していただいた企業・団体です。

713 団体

数字で見る
興動館教育
プログラムの
20年間
2006年度～2025年度

人間力育成実績

◎興動館プロジェクト参加者数(延べ)

3,613 名

◎興動館科目履修者数(延べ)

17,419 名

立ち上がった
興動館プロジェクト数
(累計)

56

プロジェクト

祇園・興動祭
総来場数

45,100 名

子ども達を守るプロジェクト

大学から地域の子どもたちへ、 広がり続ける安心の輪



コーディネーター:西國 真一さん
(教育・学習支援センター係長)

◎ニーズに応える形で 認知される団体へ

西國:興動館の立ち上げ当初、子どもが巻き込まれる犯罪の報道が多かったことから、地域の子どもたちを守りたいと企画したプロジェクトです。近隣の小学校に趣旨を説明したところ、実際に子どもたちと接してほしいというお話があったことから、まずはガードボランティアから活動をスタートさせました。

◎「見られる仕事」で 地域に良い影響を

片岡:このプロジェクトは見られる活動だと思っています。私は今、夢だった警察官として働いていますが、いつも心に制服をという言葉があるように、いつ誰に見られても恥ずかしくない行動を心がける意識が持てたのはプロジェクトのおかげです。一方で、必ず誰かが見てくれていると思うと、あの時のささいな声かけにも意味があり、全ての活動は無駄じゃないと今になって気づきます。

西國:子どもたちに、大人が見守っているよという姿を見せるだけでも意味がありますよね。

片岡:警察のパトロールと回って不審物がないかチェックする。今日、子どもたちを守る団体として地域に根付いたのはこの活動があったからこそだと思います。

斎藤:残念ながら校内での活動はコロナ禍を機になくなってしまい、今は下校の見守り活動を継続しています。片岡:そうですね、子どもたちと親睦を深めるために企画したクリスマス会など

身近なボランティア活動(行動カフィールド) 多様な共生社会 地域づくり、自己実現などに必要なボランティア活動について、その成り立ちや活動内容を多面的にリサーチし学んでいきます。学生が関心のあるテーマを選び情報収集や調査を行うことで、浮かび上がる課題や疑問点を発表資料にまとめる「アクティブラーニング」を通してチャレンジする力を養います。

西國:片岡さんが在籍していた2017年、年間約2000日のガードボランティアを12年間続けたことが評価され、文部科学大臣賞(学校安全ボランティア活動奨励賞)を受賞しましたね。

片岡:授与式では、責任を持って次に継承しなければと気が引き締まりました。



西國:地域におけるプロジェクトの評価はますます高まってきたという手応えを感じます。

斎藤:継続の一番のモチベーションは「子どもたちの安全のため」ですが、続けていると顔見知りになった子が声をかけてくれることもあり、あの子が来るから行くという使命感も自分の中では大切にしています。あとは仲間のために。この活動でチームワークの大切さを知りました。

西國:小学生の時に遊んでもらったことがきっかけで、本学に入学後プロジェクトに参加し、母校で活動したという卒業生もいます。地域に守られた子が、次の世代の地域を守る、素敵な循環ですよね。

片岡:警察のパトロールと回って不審物がないかチェックする。今日、子どもたちを守る団体として地域に根付いたのはこの活動があったからこそだと思います。

プロジェクト卒業生:片岡 美月さん (2020年3月卒/広島県警察勤務)

スポーツ推進プロジェクト

社会課題と広島の未来を、 スポーツで動かしていく

◎地域活性化から 子どもたちの健康増進へ

足立:学生の発案からスタートして20年、時代の流れとともに大きく変遷を遂げてきたのがこのプロジェクトだと思っています。始まった当初は、地域活性化プロジェクトFan Loving People(people Hiroshima)として、広島東洋カープやサンフレッチェ広島の試合の観客動員数を増やすイベント企画などをしていました。

飯塚:2025年に「スポーツ推進プロジェクト」として名称変更があった以来、対象が子どもたち中心となりました。まさにFLPカップはその礎となる活動で、昨年はサッカーに加えて野球でも開催しました。

足立:長く続けてきたからこそ、見えてきた課題もありました。



コーディネーター:足立知久さん
(入試広報センター課長補佐)

岡本:私が参加したのは、フスポートによる地域活性化プロジェクト「時代です。さまざまなスポーツと触れ合える広島の土壌を活かし、プロだけでなくトッポスポーツチームとの連携も深めていきました。

足立:現在も継続しているFLPカップも、岡本さんの代でスタートしましたよね。

岡本:公式戦に出る機会が少ない低学年の子どもたちを対象に、大学の施設を使ってサッカー大会をやろうと、試行錯誤の末に実現に至った企画です。サンフレッチェ広島にもご協力いただいて、地域の子どもたちに夢を与えるきっかけになる取り組み



プロスポーツによる広島活性化講座(企画カフィールド) 地方都市である広島において地域活性化は重要な課題です。本授業では、アクティブラーニングを実施し、プロスポーツ経営に関わっている方、広島のスポーツに関わるメディア関係者を招いての学習や、学生にはイベントクリエイターとして実際にイベントを行ってもらい、生の現場を経験してもらいます。

プロジェクト卒業生:岡本崇宏さん (2019年3月卒/株式会社TSSプロダクション勤務)

飯塚:社会人としてのマナーを学べる場でもありますが、メールや電話のやり取り一つとっても、学生ではなく一人の大人として接していただき、感謝しています。

岡本:まさにプレ社会人です。今思うと、無駄なことはいくつもなくて、アイデアを形にする経験もできました。私はスポーツ報道や中継の制作に携わっています。プロジェクトでこうした経験ができたのは、企画力などを磨けたのは大きいです。

足立:学生のうちからビジネスとしてwin-winの成果をあげるための方法を本気で考えていましたね。その経験は、学生にとって本当に貴重だと思います。

飯塚:みんなが笑顔になれる、それがスポーツの持つ力でもあります。これから子どもたちが楽しくスポーツに取り組み機会を数多く提供することで、広島のスポーツ界の発展に貢献していきたいと思っています。

足立:プロジェクトにとって、NPO法人トップス広島との連携は大きな推進力になりましたね。

岡本:そうですね。月に一度、会議の場を設けていただき、ニーズや課題について

◎スポーツの力を信じて、
広島の未来に貢献

足立:いつの代もメンバーが60名前後と多くの学生が集まっていますね。



プロジェクト現リーダー:飯塚敦也さん
(スポーツ経営学科3年/島根県・三刀屋高校出身)



社会からの評価

興動館教育 プログラム

2008・2009年度

経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」に採択

2013年度

経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選出

プロジェクト名	受賞年月日	受賞内容
インドネシア国際貢献プロジェクト	2009年 1月24日	広島ユネスコ協会「第11回広島ユネスコ活動奨励賞」
食生活支援プロジェクト	2010年 6月12日	内閣府「平成22年度食育推進ボランティア表彰」
広げよう!!平和折り鶴プロジェクト	2013年 1月19日	広島ユネスコ協会「第15回広島ユネスコ活動奨励賞」
若旅促進プロジェクト	2014年 6月25日	観光庁「第2回『今しかできない旅がある』若者旅行を応援する取り組み表彰 奨励賞」
スポーツによる地域活性化プロジェクト	2014年 6月25日	観光庁「第2回『今しかできない旅がある』若者旅行を応援する取り組み表彰 中国ブロック賞」
子ども達を守ろうプロジェクト	2014年11月 5日	広島市「広島市安全なまちづくり功労表彰」

プロジェクト名	受賞年月日	受賞内容
カンボジア国際交流プロジェクト	2016年 2月 9日	広島ユネスコ協会「第18回広島ユネスコ活動奨励賞」
子ども達を守ろうプロジェクト	2017年11月16日	文部科学大臣表彰「学校安全ボランティア活動奨励賞」
子ども達を守ろうプロジェクト	2022年12月 9日	安佐南地区保護司並びに安佐南地区更生保護女性会「広島保護観察所長感謝状」
子ども達を守ろうプロジェクト	2025年 6月13日	安佐南警察署「感謝状」
祇園から食品ロスなくそうプロジェクト	2025年10月26日	広島市「令和7年度広島市食品ロス削減推進表彰」
コミュニティFM放送局運営プロジェクト	2026年 2月12日	安佐南警察署「感謝状」

挑戦する力は、経験から育つ!

社会に出る前に、社会で学ぶ。

興動館プロジェクトは、20年にわたり実社会を学びの場としてきました。地域や企業との活動を通じて、学生たちは自ら課題を見つけ、仲間と協力しながら挑戦を重ねています。試行錯誤や失敗を経験することが、将来、困難に直面してもあきらめずに乗り越える力へとつながっています。さまざまなプロジェクトのうち、いくつかを紹介します。

企業と関わり学ぶ

若旅促進プロジェクト

若者と地域をつなぐ新しい旅の企画と実施。
自治体や企業と連携して、地方創生の課題に挑みます。

旅を通じて若者に地域の魅力を伝え、交流人口や関係人口の増加による地方創生に挑戦しています。観光資源の調査や地域住民との交流を重ね、若者ならではの視点を活かした観光プランを企画。自治体や観光団体、企業など多様な関係者と協力して提案を形にしています。

2024年度からは**鳥取県観光連盟と連携**した日野郡への誘客促進に取り組み、魅力をまとめた立ち寄りプランを制作。**JAF(日本自動車連盟)**の協力を得て、会員誌『JAF Mate』への掲載も進行中です。観光と就活を組み合わせた「若旅就活ツアー」は本プロジェクト定番企画で、旅行会社や企業と連携し、継続して実施しています。これらの活動は、**国土交通省中国運輸局との勉強会**で共有し、実社会からアドバイスを得て活動をブラッシュアップしています。

ウィンフィールド ハリー ウィリアム フィフスさん
(スポーツ経営学科3年/沖縄県・沖縄カトリック高校出身)

日本から現地企業の方への連絡手段はメールが中心ですが、意思疎通がうまくいかず、思わぬトラブルになることがあります。現地渡航の際に、解決に向けて直接対話する中で、文化や習慣が違う相手と協働するためには、**相手の価値観を受け入れる柔軟性が必要だと気づきました**。今後は、相手を尊重しながら自分たちの思いを伝えることができるコミュニケーションの方法を、活動を通して学んでいきたいです。



comment

インドネシア国際貢献プロジェクト

インドネシアの村の自立を支えるビジネスモデルの構築を目指し、
現地企業と協力して商品開発や販売に取り組んでいます。

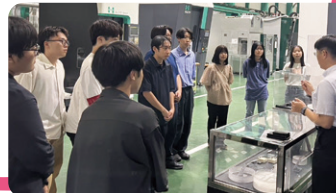
インドネシアの伝統工芸布「テヌン」を活用したフェアトレード活動に取り組み、伝統工芸の継承と現地の生活水準向上という課題に向かっています。

現地協力企業(LAWE)との商品開発では、アイデアの提案、実現可能性の検討、納期や価格の交渉まで、学生自身が担当。現地へ渡航し、異なる文化や価値観を持つ人々と協働しながら、ビジネスの現場を経験しています。開発した商品は日本とインドネシアで販売し、売り上げは新たな商品開発やミシンの提供など、現地の経済支援活動に活用します。また、2025年度からは**株式会社ヤクルト山陽と連携**し、インターネット上にも販路を広げています。



増原 哉汰さん
(経済学科4年/広島県・安芸高校出身)

「若旅就活ツアー」の企画段階では、訪問させていただきたい企業へお願いの電話をかけたり、メールでやり取りしたりと、初めてのことはかなり緊張の連続でした。企業の方に納得して受け入れていただくことを意識し、伝え方を試行錯誤したことで、**働きかけ力が身についた**と思います。最終的に3社のご協力をいただき、ツアーを無事成功させることができました。大学生のうちから、こうした経験ができたことは、社会に出てからの大きなアドバンテージになると思います。



comment

地域で学ぶ

コミュニティFM放送局運営プロジェクト

「この声が届けば、安心が広がる」-校内ラジオブースから毎日放送中!
学生が運営するFM局を舞台に、地域活性という課題に挑戦しています。

番組内容の企画や制作、取材先との調整、行政や企業との連携など、活動の現場には正解のない課題が数多くあります。地域に正確な情報を継続して届ける放送局としての責任を担い、メディアを学びながら、日々の放送に取り組んでいます。

2024年度には、**広島県警察から委嘱**を受け、「サイバー防犯ボランティア」としてインターネット詐欺などの犯罪被害を防ぐ「広報啓発活動」をスタート。また、2025年度からは**祇園町商工会と連携**し、地域の防災意識の啓発と企業PRをかねた時報CMを制作、放送するなど、地域社会での活動の幅を広げています。

FMハムスター 79.0MHz

新たに2つの
入門プロジェクトが発足

入門プロジェクトは年間を通じて審査会を実施しており、「**3人から」「いつでも」「すぐに**」挑戦できるプロジェクトです。2026年6月、2つのプロジェクトが発足しました。



笑顔でつながる100年ライフプロジェクト

高齢者の外出減少に伴う交流機会の低下は、心身機能の衰えや孤立を招く課題となっています。学生は**地域包括支援センター等と連携**し、お茶会(サロン)を開催するなど、地域での継続的な交流や役割づくりを支援し、主体的で健やかな生活を実現することを目指します。

すくすく食育プロジェクト

厚生労働省によると、子どもの野菜摂取量は推奨値に届いていません。本プロジェクトは**祇園地区の子どもを対象**に、野菜の栽培・収穫体験を通じて野菜を食べることやバランスの良い食事をとることの大切さを伝え、野菜嫌いの軽減とバランスのよい食習慣の形成を目指します。



comment

明賀 達也さん
(メディアビジネス学科3年/山口県・光高校出身)

これまでの活動がご縁で、地域で開催された式典の総合司会という大役の依頼をいただきました。当日はとても緊張しましたが、無事やり遂げることができ、貴重な経験となりました。また、防犯情報を定期発信していることが評価され、2026年2月に警察署から感謝状をいただきました。自分たちの活動が地域に受け入れられていることを実感しています。活動を通して地域の方と関わっていくことで、**自分の視野が広がっている**と感じます。

地域とともに

学生の活動が地域とのつながりを深めています。学生が地域への日頃の感謝を伝えたいと始めた「祇園・興動祭」は、2025年11月の開催で20回目を迎え、地域のお祭りとして定着しました。2014年8月に発生した豪雨による広島土砂災害では、日頃積み重ねた関係性があったからこそ、安佐南区社会福祉協議会のサテライト窓口として、迅速に多くの学生や教職員をボランティアに派遣することができました。大学と地域のつながりを見守り続けてこられた堀江正憲氏から、地域を代表してメッセージをいただきましたのでご紹介します。

地域からの応援メッセージ

広島経済大学と祇園学区社会福祉協議会は、1992年から学生が中心となり「祇園学区一斉清掃※」を毎年実施するなど、35年にわたり共に歩んできました。こうした長年の関わりもあり、2006年に興動館が開設されると、学生はスムーズに地域の中でプロジェクト活動を展開することができました。プロジェクト活動は、地域に足を運び、社会課題の解決に向けてさまざまな取り組みを行い、地域住民から高い評価を受けています。また、学生はコロナ禍などを乗り越えながら活動を続け、今では県外や海外にまで活動の幅を広げており、その躍動する姿に元気をもらっています。地域との信頼関係は、すぐに築けるものではなく、人と人との継続的な関わりの中で深まっていくものです。学生が地域を理解し、人生経験豊かな先輩方と地域貢献活動に取り組んできたことが、現在の確かな信頼と絆、そして大学と地域のつながりをより一層強いものにしています。

広島経済大学の学生は、地域や企業との関わりの中で多くの学びと経験を重ねています。その経験が「人間力」を育み、確かな力となっています。学生時代にしかできない経験は非常に有意義であり、今後も活動を通じて自らを磨き、社会で活躍する力を身につけてほしいと願います。

※祇園学区一斉清掃は、地域の環境美化への貢献が認められ、2008年と2017年に広島市長から表彰を受けています。



祇園学区社会福祉協議会
会長 堀江 正憲 氏

7月4日(土)、リーガロイヤルホテル広島において、「広島経済大学 興動館20周年記念祝賀会」を開催しました。2006年にスタートした興動館教育プログラムは、本年、20周年という大きな節目を迎え、本学を巣立った多くの卒業生が「ゼロから立ち上げる」興動人として、実社会のさまざまな分野で活躍しています。当日は、プロジェクトに所属し活動していた卒業生をはじめ、興動館教育プログラムに関わっていただいた関係者191名が一堂に会し、旧交を温めるとともに、これまでの歩みを振り返る貴重な機会となりました。

興動館20周年記念祝賀会を開催しました。

広島経済大学

立ち上げメンバーの一人でもある石田恒夫理事長によるあいさつ



パネル展示を見て学生時代を懐かしむ出席者

会場では、興動館科目および興動館プロジェクトの軌跡を紹介するパネル展示や映像に加え、本プログラムにご尽力いただいた関係者の皆さまからご祝辞を頂戴し、参加者は20年の歴史に思いをはせながら交流を深めました。この20年の歩みは、学内外の関係者の皆さまをはじめ、地域や産業界を含む多くの関係団体の皆さまとのつながりに支えられ築かれてきたものです。今後も初心を忘れることなく、次の未来に向けて、より一層の成長と社会への貢献に努めていきます。

第21回

祇園・興動祭



開催日 **2026年11月15日(日)**

祇園・興動祭は「地域とのつながりや交流によって祇園地区を活性化させる」ことを目的に、2006年から毎年開催してきました。21回目を迎える今年は11月15日(日)、広島経済大学興動館において開催します。興動館プロジェクトの長を活かしたステージやブース、地域と連携した企画など、多彩な催しを用意して皆さまのご来場をお待ちしております。

※最新の情報については
本学オフィシャルサイトをご確認ください。

問い合わせ先 **興動館**
TEL 082-832-5010

旧祇園地区の魅力発信する「地域発信プロジェクト」は、祇園パセリの魅力を



め、スローパー



込みを語った。

わかりやすく伝えるリーフレットを制作した。リーフレットには、祇園パセリの特徴や歴史に加え、生産者である農家の思い、祇園パセリを味わえるお店や料理を掲載している。

4月24日には、祇園パセリの生産者であり、祇園町農事研究会パセリ部会副会長を務める庄田俊三さんにリーフレットを手渡し、「商談資料として活用できる」と高い評価をいただいた。リーフレットは安佐南区役所や公民館などの公共施設をはじめ、スローパー

マーケットなどの小売店にも設置するほか、地域イベントへの出展時に配布することで、祇園パセリの認知度向上を目指している。

リーフレット制作を担当した田辺サラさん(メディアビジネス学科3年・広島県/広島県立広島商業高校出身)は、「祇園パセリを知っている方にも、これから知っていただく方にも、魅力はもたらさず、歴史や生産者の思いを伝え、親しみと愛着を持っていただけるよう、本リーフレットを幅広い場面でも活用していきたいです」と意気込みを語った。

Topics

祇園パセリの魅力を伝えるリーフレットを制作

Topics

インドネシア国際貢献プロジェクトが
広島ロータリークラブから寄付をいただきました

フェアトレード活動を通じてインドネシア農村部の生活水準向上を目的に活動している「インドネシア国際貢献プロジェクト」が5月12日、広島ロータリークラブの例会において、三島豊会長から活動支援金の目録贈呈を受けた。本プロジェクトは現在、現地の協力企業や姉妹校であるガジャ・マダ大学の学生たちと連携し、伝統的な布を

使ったオリジナル商品の開発や技術支援、販売活動を展開することで、伝統工芸品を活かした新しいビジネスモデルの確立を目指している。



例會に出席した佐郷稔高さん(ビジネス情報学科4年・山口県/柳井高校出身)は、「広島ロータリークラブの皆さまの前で話すことはとても緊張しましたが、今回のご支援は私たちの活動

4月18日、明徳館にて「新入女子学生歓迎会(ウェルカムパーティー)」を開催した。この歓迎会は女子学生同士の親睦を深め、大学生活が楽しく充実するよう毎年開催している。女子学生会通称こまち会)の先輩女子学生ス

Topics

「新入女子学生歓迎会(ウェルカムパーティー)」を開催

タッフが出迎えるなか、75名の新入女子学生が参加。大学生活の不安や悩み、授業や勉強、部活動・サークル活動について相談していた。新入生同士もすぐに打ち解け、ゲキを囲みながら会話が弾み、会場は終始笑顔に包まれた。今後も



こまちは主催イベントを通して女子学生支援の充実を図っていく。

5月13日、陸上競技部と広島県信用組合は、「アスリート支援に関する協定」を締結した。陸上競技部が外部団体と支援に関する協定を締結するのは今回が初めて。この協定は、本学陸上競技部が全国大会に多数出場していることに加え、学内の第4種ライト陸上競技場(日本陸上競技連盟公認)で、地域アスリート対象の記録会運営に20年協力するなど、地域貢献活動にも取り組む姿勢が評価され、締結に至った。広島県信用組合の深山春幸



目的とするものではなく、地域貢献の一環として陸上

競技部の活動を支援したいと考え、スポンサー契約ではなくアスリート支援としました。この支援を通じて、学生アスリートの競技力向上と人間的成長の後押しになることを願います」と述べ、激励の言葉が送られた。陸上競技部主将の日隈敦士さん(経済学科4年・山口県/秋高校出身)は、「今回いただいたご支援を力に変え、支えてくださる皆さまの期待に応えられるよう、競技結果はもちろん、日々の生活から恩返ししたい」と思いを語った。

Topics

陸上競技部が広島県信用組合と
アスリート支援に関する協定を締結

6月21日、短期交換留学生と日本人学生が甘日市市的一般社団法人はつかいち宮島ツーリズムと連携し、世界遺産・厳島神社で知られる宮島で、旅先クイズ会を開催した。本事業は公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を受けて実施。観光客にオーバートーリズム(観光公害)によるゴミ問題や野生のシカへの影響など地元の問題をクイズ形式で発信し、旅先での行動を見直すきっかけづくりを目的

Topics

交換留学生と日本人学生が「旅先クイズ会」を実施

としている。当日は国内外から訪れた500人以上の観光客に、島内の環境問題に関するクイズに挑戦してもらった。外国人観光客の母国語に合わせた多言語(5か国語対応)での説明や交流が活発に行われ、参加した観光客からは「楽しみながら宮島の環境問題を知り、ルールを学べた」との声が寄せられた。留学生と日本人学生にとっても多様な観光客と交流しながら発信力を磨く機会となった。今後も地



2026年度広島経済大学学生表彰受賞者及び石田学園各種奨学生が決定した。今年度は、学生表彰者に3名、奨学生に29名の学生が対象者となった。決定した表彰者、奨学生は次のとおり。

●広島経済大学学生表彰(3名)
学部2・3・4年次生において、前年度1年間に39単位以上修得した者の中で、学業成績順位が各学年で第1位の者。

岡田知怜(経営学科4年)、伊勢野花(経済学科3年)、泉谷美緒(メディアビジネス学科2年)

●石田学園奨学生(20名)
学業成績、人物ともに優秀な学生に対して支給。

【4年】中野花音(ビジネス情報学科)、西本ひなた(経営学科)、大石忠輝(スポーツ経営学科)、浅海ひなた(経営学科)、熊谷好実(経済学科)、松本陸日(経営学科)【3年】伊勢野花(経済学科)、加地晴人(経営学科)、草替善貴(経済学科)、上智智博(経済学科)、浅本友聖(経済学科)



石田学園奨学生

2026年度
広島経済大学学生表彰
石田学園各種奨学生
決定

今年度(経済学科)、高橋秀樹(経済学科)【2年】原田純利(経済学科)、時兼結衣(経営学科)、田中楓夏(経営学科)、西岡日菜子(経営学科)、岸田真実(スポーツ経営学科)、陶山一(経済学科)、武内弥依(メディアビジネス学科)

●石田学園タイプ奨学生4名
学業の修得だけでなく、さまざまな分野において若者らしい積極的な活動を行っているなど、本学学生の模範としてふさわしいと認められる者に対して支給。

中川菜都(経営学科4年)：3年次から応援団に入部し、同団の活動に積極的に取り組んでいる。現在は応援団長兼応援団吹奏楽部長として、部員同士のコミュニケーションや交流の機会を設け、関係性の強化に努めるとともに、より質の高い活動を目指している。今年度は、部員数の増加を図るためゼミを訪問し、応援団のPRを実施する予定である。出張駅伝や全日本大学駅伝での応援を表現すべく、部員増強に取り組み強い決意を見られる。今後のさらなる発展が期待される。

山田光太(経済学科3年)：昨年度はアクティブ奨学生として1年間、ヒロシマ・メッセージをはじめ、短期留学、カフェ運営プロジェクト、留学生向けイベント、留学生支援サークルなどに熱心に取り組んできた。今年度もカフェ運営の改善や留学生支援の拡充につなげていきたいとのことである。また、将来の目標である中学校社会科教員として、しっかりとした教師像を持っており、さらなる活躍が期待される。

喜嶋直樹(経済学科3年)：本学に入学して以来、一貫して異文化・国際交流活動に取り組んでいる。留学生のランゲージパートナーをはじめ、観光案内活動、留学生寮のレジデント・アシスタント(RA)、短期留学など、さまざまな活動に取り組んできた。今年度も引き続き、英語力の向上と異文化理解をさらに深めるとともに、RAやヒロシマ・メッセージ、異文化コミュニケーション、リーダーとしての活動を通じて、後輩学生への支援や大学のPRに積極的に取り組む。将来の目標である観光企画・プロデュースに向けて実践経験を積み重ねており、今後の活躍が期待される。



学生表彰者

6月9日、外国人留学生を支援する石田学園同窓会外国人留学生奨学生に2026年度はベトナム出身のNGUYEN THI HOA(グエンティホア)さん(経営学科3年)が決定した。この奨学生制度は同窓会から寄付を受けた広島経済大学が、毎年1名に年額50万円を奨学金として支給しているものである。ホアさんはこの度は奨学生として採用していただき、心より感謝申し上げます。私は経営学科に入学し、現在は特に国際経営の分野に強い興味を持っています。卒業後は日本で就職し、日本とベトナムをつなぐ架け橋となる仕事に就くことが私の目標です。この奨学金を励みに、さらに専門知識を深めてまいります。また、在学中はもちろん、同窓会が開催する活動やイベントなどに積極的に参加し、同窓会員との良好な関係を長く持ちたいと考えます。後輩たちが安心して挑戦し、共に成長できるような環境づくりに貢献し、恩返しをしていきたいです。今後も感謝の気持ちを忘れず、将来の夢に向かって邁進いたします。本当にありがとうございました。今後の抱負を語った。

同窓会外国人留学生奨学生に決まったNGUYEN THI HOAさん(中央)と、水野隆司同窓会会長(左)、ジョージ・R・ハラダ国際教育交流センター長(右)の3人が記念撮影している。

同窓会外国人
留学生奨学生
決定

シティカレッジ 2026年度 広島経済大学公開講座
9月1日(火)受付開始

テーマ 現代社会のメディアリテラシー・情報リテラシー
受講料無料 定員60名

本年度の講座は、「現代社会のメディアリテラシー・情報リテラシー」と題して話題を提供いたします。近年、ソーシャルメディアの普及によって、従来のマスメディアの情報に関してさまざまな考え方が登場しております。

そこで今回は、賢い生活者としてマスメディアとソーシャルメディアにどう接していくべきなのか、生成AIによる情報発信にどう向き合うべきなのかを、新聞記者、テレビ局報道マン、広告会社マーケティングマンのキャリアを持つ3名の本学教員がわかりやすく解説いたします。

第1回 10/15(木) 新聞報道にどう接するか(スポーツ報道を例に)
講師 小笠 喜徳(教授)
新聞報道は、紙媒体からデジタル媒体に移りつつあります。本講義ではカーブやサンフレッチェなど身近なスポーツ報道を事例に、新聞報道の現状を考えます。新聞の長所や短所に加え、どう変化してきたか、これからの時代にどう接するべきかなども、中国新聞社の元スポーツ記者が解説します。

第2回 10/22(木) SNS時代のテレビ報道 ～その役割と、伝えたいこと～
講師 山田 哲敬(教授)
ブログやSNSが社会を動かす主役となり、テレビ報道のあり方が問われています。批判も多い中、ネット時代だからこそ「伝えるべき真実」を愚直に追いつめるテレビ現場があります。震災やドキュメンタリーの舞台裏を交え、溢れる情報とどう向き合うべきかを皆さんと考えます。

第3回 10/29(木) 現代人に求められるメディアリテラシーと情報リテラシーとは
講師 北野 尚人(教授)
近年、マスメディアもソーシャルメディアも大きく変化しています。また、生成AIによる情報発信も急増しています。本講義では、現代人とはどのようなリテラシーを持ってメディアや情報に接するべきなのかを、博報堂で35年間大手企業のサポートをしてきた元マーケティングマンが解説します。

- コーディネーター/濱田 敏彦(教授) ●時間/18:00～19:30(開場17:30)
- 会場/広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室C (広島市中区袋町6-36)
- 申込手順/電話、ファックス、来所にて、①希望講座もしくは大学名②氏名(ふりがな)③住所④連絡先(電話番号・ファックス番号等)を以下の申込先にお知らせください。
※郵送(はがき等)による申し込みは受け付けておりません。
- 申込先・問合先/公益財団法人広島市文化財団ひと・まちネットワーク部管理課
広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階
TEL(082)541-5335 FAX(082)541-5611
- 受付時間/月～金(祝日を除く) 8:30から17:15まで(来所の場合は9:30から)
※個人情報については、大学・教育ネットワーク中国と共有しますが、事業運営以外の目的には使用しません。

受講上のお知らせ
受講当日の大雨や台風などの気象状況等により、講座を中止する場合があります。休講等の情報は教育ネットワーク中国のホームページ(https://www.enica.jp/)に掲載されます。

※日時厳守、先着順、定員になり次第締め切ります

OPEN CAMPUS 2026情報

オープンキャンパス2026を開催します。学部学科説明会や個別相談など充実したプログラムを用意して皆さまをお待ちしています。
※最新の情報は本学公式サイトでご確認ください。

8/23(日)
広島県内遠方、その他中四国エリアからは無料送迎バスを運行します

問い合わせ先 入試広報センター TEL.082-871-1313

SNS公式アカウント
最新情報発信中!

ぜひ、フォローしていただき、大学や学生の日々の取り組みをご覧ください。

Facebook X(旧Twitter)

QRコード

昇格
人事
客員教授
異動

水野隆司同窓会会長(左)、同窓会外国人留学生奨学生に決まったNGUYEN THI HOAさん(中央)、ジョージ・R・ハラダ国際教育交流センター長(右)の3人が記念撮影している。

陸上競技部が2026日本学生陸上競技個人選手権大会で準優勝

4月24日、26日、神奈川県鎌倉市で開かれた2026日本学生陸上競技個人選手権大会において、陸上競技部の藤井奏汰さん(経営学科4年・岡山県)と興譲館高校出身の男子1500mで準優勝の成績を残した。

ハードテニス部が女子ダブルスで準優勝し、2026年全日本学生室内テニス選手権大会の出場権を獲得

5月16日、23日、広島県公園テニスコートにて開催された2026年全日本学生室内テニス選手権大会の出場権を獲得した。

陸上競技部が2026日本学生陸上競技個人選手権大会で準優勝

4月24日、26日、神奈川県鎌倉市で開かれた2026日本学生陸上競技個人選手権大会において、陸上競技部の藤井奏汰さん(経営学科4年・岡山県)と興譲館高校出身の男子1500mで準優勝の成績を残した。

サークル戦績

陸上競技部
▽第34回金栗記念選抜陸上中長距離大会2026
【男子1500m】藤井奏汰(36位・小川晴也(52位・瀬尾大和(54位))
▽2026日本学生陸上競技個人選手権大会
【男子1500m】藤井奏汰(2位)
【女子2000m】坪倉愛美(女子4000m)宮廣えりか
▽第37回ゴールデンゲームズinのべおか
【男子5000m】小川晴也

第59回 経大祭 テーマ:「palette」 10/24(土)・25(日)

10月24日(土)・25日(日)、広島経済大学において第59回経大祭を開催します。今年度のテーマは「palette」(パレット)です。このテーマには「それぞれ異なる個性を持つメンバーが学年や学部の垣根を越え、大学祭という舞台でそれぞれの想いを自由に描き、表現する」という意味を込めています。その想いをもとに、一人ひとりの個性に注目し、さまざまな魅力で溢れる彩り豊かな大学祭を創り上げます。

※最新の情報は本学公式サイトよりご確認ください。

問い合わせ先:学務センター学生課 TEL 082-871-1003

